

Satsuki Shidara
設樂　沙月
歯科医師
博士（歯学）
東京歯科大学 薬理学講座 助教

基礎研究から臨床を紐解く

基礎研究から見えてくる臨床課題解決の糸口

基礎研究 ⇌ 臨床

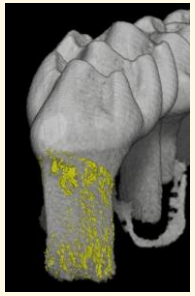
九州大学を卒業後、東京大学医学部附属病院での臨床研修を経て、東京歯科大学歯科矯正学講座に入局しました。「働き方の選択肢を狭めたくない」そんな思いから、東京歯科大学大学院歯学研究科に進学しました。

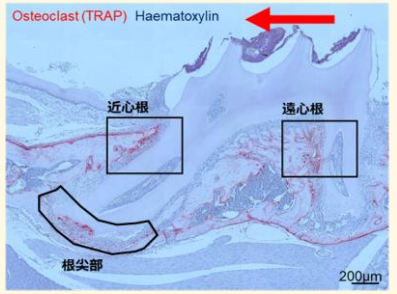
大学院在学中は、矯正歯科臨床を学びながら、口腔科学研究センターの溝口利英教授のもと、骨代謝に関わる基礎研究に取り組みました。学位論文のテーマは歯根膜における幹細胞と骨リモデリングに関するものでした。一方、日々矯正歯科臨床を行う中で、もっとはやく歯は動かすには？、どうして歯根吸収は起こってしまうのだろうか？といった臨床課題に直面するようになりました。

学位論文のテーマに取り組む傍ら、せっかくなら矯正歯科関連の実験もということで、マウスの歯の矯正移動モデルを作製しました。これにより、生化学的な解析手法を用いて、歯の移動によって顎骨内でどんなことが起きているのかを可視化することが可能となりました。つまり、日頃臨床で直面している、歯の移動様式や歯根吸収といった課題について、その様相を可視化し、定量することが可能となったのです。

現在は薬理学講座に移籍し、教育・研究に携わりながら矯正歯科臨床にも従事しています。学部学生の頃は、歯科矯正学の「矯正歯科治療に伴う生体反応」には最も興味が持てなかったはずなのに、、、いつの間にか臨床課題解決に向けて、そのテーマで基礎研究に取り組むようになりました。幸いにも大学院を通して臨床課題の解決に繋がるような研究テーマを持てたことが、現在の自分の働き方・在り方に繋がっています。









学生へのメッセージ

卒業後の進路について、自分の目指す将来像と照らし合わせて悩む学生さんが多いことと思います。どれを選べば正解なのか、残念ながら試験のように答えがあるわけではありません。目の前のことに真摯に向き合っているうちに、次第に自分のやりたいことが見つかり、道もひらけてくるはずです。いろんなことに挑戦しながら、楽しみながら、それぞれの道を模索していただけたらと思います。大学院に進学された暁には、それぞれの専門分野での臨床課題解決の糸口を教えてください。

経歴

2020年3月	九州大学 歯学部　卒業
2021年3月	東京大学 医学部附属病院 口腔顎顔面外科・矯正歯科 臨床研修修了
2021年4月	東京歯科大学 歯科矯正学講座　臨床専門専修科生
2022年4月	東京歯科大学大学院 歯学研究科　入学
2026年3月	東京歯科大学大学院 歯学研究科　修了
2026年4月	東京歯科大学薬理学講座　助教 現在に至る